

Q-switched ruby laser

(Qスイッチルビーレーザー)

最近のレーザー機器の進歩には唖然とするばかりです。The Ruby Z1 がその代表格です。

1ショット(6mm の六角形)4400円から治療しておりますので、どうぞ御活用くださいませ。適応疾患は先天性の太田母斑、扁平母斑、異所性蒙古斑、外傷性色素沈着(以上は保険適応)、老人性のシミ、ソバカス、色素性母斑(ホクロ)、刺青(黒色)、遅発性太田母斑などです。ただし、肝斑には禁忌です。

痛みはほとんどなく、浅いホクロや小さなシミでは1回の照射でシミが浮いてき、かなりの効果を認めます。もちろん傷跡にはなりません。

また、某日には太田母斑と老人性色素斑と扁平母斑と青色母斑の全面照射が一日で出来ました。その1週間後、老人性色素斑は見事に100%取れておりました。扁平母斑や太田母斑も数回の照射でかなり薄くなり明らかな効果を認めました。特に濃い脂漏性角化症(加齢によるイボ)やソバカスには有効性大で、一旦濃くなりますが、ほとんど1回照射で取れます。現在は予約不要です。ただ、照射範囲が広いと、局所麻酔が必要ですし、照射後1週間は軟膏塗布とテーピングが必要です。この期間内で人前に出られる予定がある方は避けて下さい。

1983年にハーバード大学の Rox R Anderson らによって確立された選択的光熱融解理論 Selective Photothermolysis は、20年以上たった今でも皮膚レーザー治療のバイブルとして引用されています。

この理論に基づき、1990年に色素性皮膚疾患治療用のレーザーとして初めて登場したQスイッチ・ルビーレーザーは、その歴史の中でゴールドスタンダードとしての立場を強固に築き上げてきました。

数あるQスイッチレーザーの中で、なぜルビーがスタンダードなのか? どうしてルビーには根強いファンがいるのか? 長年のノウハウと妥協しない、技術の結晶 The Ruby Z1—それが答えです。

- メラニン選択性の高い波長
- 疾患に合わせ照射時間を選択可能
- 深在性色素疾患への高い効果と深達性
- 表在性皮膚色素疾患への鋭い反応性
- ムラの少ない均一な治療

レーザーの種類	ルビーレーザー
発振波長	694nm
パルス幅	Qスイッチ発振時 20nsec ノーマル発振時 200 μ sec
最大出力	Qスイッチ発振時 10J/cm ² ノーマル発振時 40J/cm ²
繰り返し照射数	0.5Hz
照射モード	リピート照射可
スポットサイズ	21.7mm ² (標準)
冷却方式	内部冷却水循環方式
外形寸法	495(W) × 782(D) × 1155(H)mm
重量	182kg
定格電源	100V/200V、35KVA
医療機器製造販売承認番号	16200BZZ00173000

